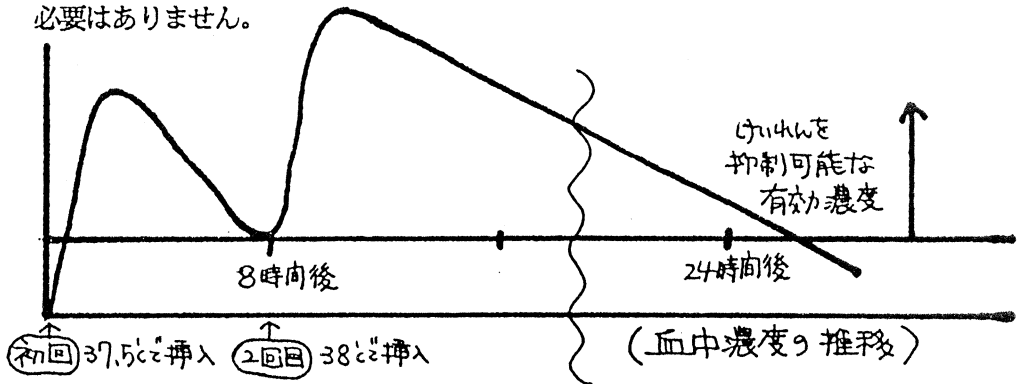


## 〈ジアゼパム坐薬 (ダイアップ坐薬) を使う方へ〉

乳幼児期には、発熱時に熱性けいれんを起こすことがあります。熱性けいれんを一度起こしたことがある場合でも、発熱時に抗けいれん剤のジアゼパム坐薬を正しく使うことにより、再びけいれんが起こるのを防ぐことができます。

### \*使用方法\*

1. 熱性けいれんは、体温が急激に上昇する時に起こりやすいので、37.5度前後の発熱に気づいたら、できるだけ速やかに一回分の坐薬を挿入します。
2. 38度以上の発熱が続くときは、8時間後にもう一回分の坐薬を挿入します。
3. 二回分挿入したあとは、その後、発熱が続いても、原則としてそれ以上挿入する必要はありません。



### \*副作用\*

- ・ねむけ、ふらつきが出現したり、ときには興奮状態になることもあります。

### \*解熱剤との併用について\*

- ・解熱剤も併用する場合は、まず、ジアゼパム (ダイアップ) 坐薬を挿入して、その次に30分以上たってから使用します。同時に使用すると、ジアゼパムの吸収が阻害される可能性があります。

### \*受診について\*

- ・次回受診時には、発熱の状態、坐薬の使用状況をメモなどに残し、医師にみてもらいましょう。正しく使用されているか、判断のもとになります。

\*\*坐薬を入れて、30分以内に便などといっしょに出てしまったときは、再び挿入して下さい。30分以上たっていたら、吸収されますので再び挿入する必要はありません。